

清泉カトリック センター便り

第13号
平成26年
8月25日

【編集・発行 カトリックセンター】

今月のみことば

「心の貧しい人々は、
幸いである」

(マタイ5・3)

八月十五日は終戦記念日ですが、
カトリック教会では「聖母被昇天」
の記念日として祝われます。
聖母マリアが天国にあげられたとい
う信仰に基づいた祝日で、一九五〇
年に教義の中にいれられました。

「心の貧しい人々が幸い」大変有名な聖書の言葉ですが、「何故、心の貧しい人が？」といった疑問をおこさせる言葉ですね。

これは「平地の説教」と呼ばれる説教の冒頭に語られたイエスご自身のことばで、イエスに心を開いている人々に向かって言われた言葉です。

イエスは言います。「私の弟子であるあなた方にとって、貧しいことは幸いです。それによって、あなた方は何よりも神に信頼する心が保たれ、神に対する素直な心が養われます」と。

「貧しい者」とは、神の前に無一物同然であることを知っている人、つまり自分のみじめさ、弱さ、愚かさを知ること、謙遜で柔和な、仕える心を持った人のことです。

「幸い」と訳されている言葉の内容は、「神に

7月、8月の活動報告

7月9日(水)シスター中村葉子さまの「東ティモールから」特別公開講義がありました。東ティモールの歴史から最近の事情まで。10年以上もの間現地で活動されてきた経験に基づいた迫りに満ちたお話に、集まった学生や一般聴衆も聞き入っていました。

8月4日(月)「建学の精神研修会」を神言会のマイケル・シーゲル神父様をお迎えして実施しました。

祝福され、恵みを受けた」状態を意味し「ああ何と祝福されていることでしょう」と相手に向って心から「おめでとう」と感嘆の声をあげているのです。

『自分の心のみじめな状態を知り、神により頼む者は、何と幸せな、祝福を受けた人なのでしょうか!』

(文責：窪寺洋子)

教皇フランシスコからの贈り物

史上初めて、アメリカ大陸から教皇に選出された教皇フランシスコは、就任以来、カトリック信徒のみならず、世界中の人々から愛され、期待されています。その人気の秘密は、常に、貧しい人々への奉仕を最優先する誠実さと正義と平和への責任感の強さに加え、温かみのある素朴な人柄と溢れるユーモアにあります。人気が一線を画すご自身の方針を示し、「惜しみなくかつ勇気をもって、恐れたり禁止事項を設けたりせず、に適用するよう」と聖職者や信徒に呼びかけたメッセージが『使徒的勧告 福音の喜び』*です。半年遅れでようやく日本語版が出版されました。どこから読み始めても、思わずうなずいていて自分自身がつかずかずです。いつも、なんとなくおかしいと思ってしまうことが、なぜおかしいのか。おかしなことにはどんな態度をとればよいのか、それらが明解で力強い言葉で示されているからです。「自分の安全地帯にしがみつく気楽さゆえに病んだ教会より、出ていったことで事故に遭い、傷を負い、汚れた教会の方が好き」だと明言する教皇は、教会は正義のための戦いの傍観者であってはならない。だから、愛をもって外部に開かれ、他者・社会・世界に能動的に関わっていく教会にならねばならないVと呼びかけます。「路上生活に追い込まれた老人が凍死してもニュースにならず、株式市場で

2ポイントの下落があれば大きく報道されるなど、あつてはならぬこととす。教皇は、難しい顔をして、世界と切り結ぶことを求めているわけではありません。イエスのメッセージは常に喜びの源であり、そこではだれも排除されることはないのだと静かに語りかけます。わたしたち清泉に集う全員が喜びにあふれて旅を続けることができるよう、教皇フランシスコから贈りものを喜びとともに受けとりましょう。勧告は回勅より少し軽快で暫定的な感じがある文書のようです。勧告はラテン語 ADHORTATIO の訳語ですが、この文書には、勧告という法律用語より「励まし」という日常語の方がしっくりくるのではないかと思えます。(文責：芝山 豊)

